



大阪市立大学

有恒会ニュースレター

No.7 October 2021



認可書を掲げ記念撮影に応じる左から辰巳砂学長予定者、西澤理事長、松井市長、吉村知事=大阪市役所で

文科省が大阪公立大学の設置を認可 公立では日本最大規模の大学が誕生



大阪公立大学

大阪市立大学と大阪府立大学が来春統合してできる「大阪公立大学」の設置認可を8月27日付で文部科学省から受けたことから、公立大学法人大阪の西澤良記理事長と学長予定者の辰巳砂昌弘・大阪府立大学学長が9月3日、大阪市役所で吉村洋文大阪府知事と松井一郎大阪市長と面談し設置認可を報告、来春の開学に向けて抱負を語りました。

会議では冒頭、西澤理事長が文部科学大臣から認可書を受領し、正式に認可を受けたことを報告、「11年前、大阪市立大学学長を務めていた頃、当時の橋下徹市長、松井知事の時代に統合の議論が始まり、学内で39ものワーキングを立ち上げ数え切れないほどの議論を重ねてきた」と振り返り、「ここまで来れたのは知事、市長の変わらぬご支援のお陰。日本最大規模の公立大学を来春開設できる安堵感と同時に、その責任の重さを痛感しています」と心情を吐露。

辰巳砂学長予定者は「これ以上ない喜び。大阪の自治体、都市や人々に直結した公立大学として世界に伍する高度研究型大学を目指したい」と強調、「キャンパスは分散しますが、すべてのキャンパスに『ネットワーク型イノベーションエコシステム』を構築、来春開学時には『イノベーション・アカデミー構想』を打ち出したい」と力強く抱負を語りました。

これを受けた松井市長は「両大学とも長年の歴史があるなど当初はやり遂げるのは不可能ではないかという意見が多くありました。しかし、日本における『知の拠点』の必要性、少子化の波を乗り切ることで合意でき、大学統合が実現できた。都市シンクタンクとして都市経営に役立つような研究を担ってほしい。世界大学ランクインでトップを目指せるような大学に」とエール。

吉村知事も「今回の認可は、新大学として同じ目標に向かって頑張っていく第一歩。日本最大の公立大学のスタートで、140年の歴史を結集し日本一はもちろん世界に羽ばたいてほしい。大阪の枠にとどまらず都市としての成長を目指すため、大阪の成長と発展を支える『知の拠点』となるような素晴らしい大学として発展してもらいたい」と述べ、強い期待を寄せました。

大阪公立大学はこれにより、1学域、11学部、大学院15研究科を擁する国内最大規模の公立総合大学が大阪に誕生することになりました。学部学生入学定員2848人は国公立大学3位となり、大学総収容定員は1万1775人、大学院総収容定員は3314人。来春の開学時は、「阿倍野」「杉本」「中百舌鳥」「りんくう」「羽曳野」の5つのキャンパスと「梅田サテライト」でスタート、2025年4月には「森之宮キャンパス」が開設される予定です。

文責：藤山純一（法昭51卒）

大学統合で有恒会と府大陵友会が合意書 両同窓会の事務組織設立

来春開学する大阪公立大学の文系学部としては、現在の市大文系学部をベースに府大現代システム科学域の経済系を取り入れた4学部の構成で発足となります。拠点は杉本キャンパスで、将来的には文学部は2025年に開設される森之宮キャンパスに移転する予定です。

入学定員は、商学部(270)、経済学部(295)、法学部(180)、文学部(160)の合計905人。都市経営研究科は社会人向け大学院として継続されます。

同窓会としては市大が文系4学部の有恒会、府大が経済系の陵友会とあり、統合を視野に入れ、現在連携について協議中です。また、各支部についても合同で行事の開催をしようという動きも出てきています。両同窓会が協調し、大阪公立大学のイメージアップに繋がるような活動に結び付けていきたいと考えます。

その第一歩となる大阪公立大学の新入生のための事務組織を設けることを両同窓会が合意、その調印式が9月14日、田中記念館同窓会会議室で行われました。

事務組織は「大阪公立大学商経法文同窓会」で、調印式には有恒会から岡本直之会長、小林俊介副会長、宮川庄一副会長ら、陵友会からは津戸正広会長、宮崎朗副会長が出席。



合意書に調印した岡本会長(右)と津戸会長=田中記念館同窓会会議室で

調印を終えて岡本会長は「大阪公立大学の文系学部の皆さんへの支援に向け大きな一步を踏み出すことができました。両同窓会の統合に今後も精力的に取り組んでいきたい」と強調。津戸会長は「来年4月には大阪公立大学の新入生を迎えることになります。共に協力しながら支援していきたい。早く一緒になって活動し歩んでいけるよう務めたい」と話しました。

新しい有恒会、目指し総会開催 会則など大幅に見直し体制整備

有恒会は6月12日、リモートによる令和3年度定期総会を開催、会則の大幅変更を提案し、一部役員改選も含め承認されました。大阪府立大学と来年4月に統合し大阪公立大学が誕生しますが、有恒会についても将来の統合を見据えて会則本体の簡素化や機関決定の迅速化を図ることが目的です。

総会ではまず岡本直之会長が「来春の新大学開学を控え、新しい有恒会を目指し意義ある総会に」と挨拶。来賓として参加した荒川哲男学長は「本館1号館を本学のレガシーとして残したい。このため有恒会がぜひリーダーシップを取ってほしい」と呼びかけました。

引き続き令和2年度活動報告、決算報告が承認された後、同3年度の活動計画として、母校の新大学への移行を踏まえ、「有恒会の長い歴史に育まれた同窓会活動を基本に、旧習にとらわれることなくここ数年で進めてきた支部網の整備を活かし、組織体制、運営方法などを大胆に見直し、『新しい有恒会、を目指す』と提議。

「恒心」を忘れることなく、歴史と伝統を『継承』し、『飛翔』の精神で本年度を有恒会の新しい歴史を刻むための再出発の年にするこにしました。

会則の大幅変更つきましては、具体的には条数を45条から27条に削減、評議員制度、運営本部、評議員・役員選考会等を廃止する一方で、常任副会長会の権限を明確化し迅速



リモートで開催された有恒会令和3年度総会

な対応が可能となる会則になりました。大幅な変更は平成4年以来29年ぶりです。

一部役員改選では牧野忠廣副会長(経昭44卒)が退任、新たに常任副会長に北村吉文・事業部会長(経昭48卒)、藤山純一・財務部会長(法昭51卒)が選任されました。任期はいずれも令和4年度総会までの1年。

有恒会委員の設定および役割について

有恒会は来年4月の大蔵公立大学のスタートに合わせて、組織の簡素化・スリム化や機関決定のスピードアップを図るために組織面での大幅な見直しを実施し、これまで議決機関でもあった評議員制度を廃止する一方で、新たに有恒会委員制度を立ち上げました。

平成卒以降を対象に文科系4学部から年次ごとに各1人ずつを選出し、総計50人から100人程度で組織します。有恒会委員には有恒会本部と会員、各支部間をつなぐ重要な役割を担っていただくことになります。皆さんのご協力も併せてお願いいたします。

「旧大阪商大」跡の鳥ヶ辻石碑を本学に移転へ

第二大阪警察病院(大阪市天王寺区鳥ヶ辻)の一角に旧大阪商科大学、旧大阪市立高等商業学校校舎跡の石碑がありますが、今回同病院の増床工事のため撤去を余儀なくされることとなり、有恒会では杉本キャンパスにある五代スクエアの一角を活用し石碑を移転、再度建立する方向で検討を進めています。

石碑が立っている場所には大阪市立大学の前身である大阪市立高等商業学校が明治44年から昭和3年まで、また昭和3年から同9年まで大阪商科大学が活用した校舎がありました。イングリッシュ・ルネッサンス様式



「大阪市立高等商業学校、大阪商科大学跡」と刻まれている鳥ヶ辻石碑

による煉瓦造りの大校舎は、当時の新聞が「関西第一の大校舎」と表現したほどの規模でした。有恒会では同窓生の要望を聴き入れ、会員からの寄付を募って昭和50年4月に記念碑を建立しました。

しかし今回、設置先の諸事情により移転することになり、有恒会では石碑を杉本キャンパスの五代スクエア内に移設する方向で取り組んでいます。今後具体的な計画等が決まりましたら改めてお知らせします。



市立大阪高等商業学校鳥ヶ辻校舎
(明治44年)



大阪商科大学正門

阪和興業(古川弘成社長)が紺綬褒章を受章

2020年7月に本学の発展のために多額の寄附をした阪和興業株式会社(古川弘成代表取締役社長・経昭44卒)に対して、今年6月、日本国より公益のために多額の私財を寄付したとして紺綬褒章が授与されました。これを受け、8月30日に同社大阪本社で紺綬褒章伝達式が行われました。

この寄附は、夢基金の寄附目的「創立140周年記念事業のために」「大学の発展のために」「全天候型グラウンドの整備のために」として、1号館講堂の整備や全天候型グラウンドの整備などに活用されました。



古川氏④に紺綬褒章を伝達する荒川学長=大阪市中央区の阪和興業で

留学生紹介

曹 知言(そう・ちげん)さん (中国・上海出身)
(文学研究科文化構想学専攻、文化資源学専修 M1)

2021年4月に本学の文学研究科に入学し、現在は菅原真弓先生のもとで日本近代美術を専修しています。普段は博物館や美術館に足を運んだり、民宿に泊まって旅行先の地元文化に触れ合ったりするのが好きです。

また、人とコミュニケーションを取ることも好きで、市民ダンス公演に出演したり、環境保護のボランティア活動などにも参加しています。

これから、大学のいろいろな活動に参加し、積極的に新しい環境と雰囲気に溶け込んでいきたいと思います。そして、美術に関する知識を活かし、同士と一緒に協力して美術の魅力を発信していきたいと思います。



奈良県の吉野川で

教科書「五代官有物払下説」見直しを求める活動スタート 五代友厚記念事業委員会

本学の開学の祖、五代友厚を顕彰することを目的に活動している五代友厚記念事業委員会(児玉隆夫委員長)は、明治14年の北海道開拓使官有物払下げ事件で政府が五代の関西貿易社に払い下げしようとしたとする誤った記述が高校日本史の教科書に記載されていることについて、「五代友厚官有物払下説見直しを求める会」を発足、記述の見直しを求める署名活動を展開すると共に、来年1月には「五代友厚名誉回復推進シンポジウム大阪(仮称)」を開催し共同声明を発表、来春には文部科学省に署名を添えて要望書を提出する方針です。

今回の取り組みは、昨年8月に大阪市立大学同窓会が八木孝昌氏(経昭41卒)に執筆依頼した『新・五代友厚伝』(PHP研究所刊)が出版されたことを機に、五代の足跡と業績を正しく伝



文化交流センター同窓会談話室へ現物寄付

建部好治氏(経昭28卒)より、同窓会談話室の書籍拡充を目的として、本学に不動産投資信託投資証券(以下J-REIT)と書棚の総額約1100万円相当の多大なる現物寄付をいただきました。改めて感謝申し上げます。

J-REIT配当金(年額約50万円)を原資に、新刊図書(同窓会内図書選定委員会にて選定)を拡充してまいります。同窓会談話室では、利用者が気軽に立ち寄って読書・歓談していただけるように取り組んでまいります。



書棚撮影用に、大阪市立大学卒業生からの寄贈本(開高健)を展示。

えていくために「高校教科書の五代官有物払い下げ説」の見直しを求めるもの。

「見直しを求める会」は、大学関係者や関西の政治、経済界などから幅広く発起人が集い発足。1万人の署名運動を展開しています。

また、「シンポジウム」は来年1月22日午後1時から、本学田中記念館ホールで開催。コーディネーターには五代の地元、鹿児島県で活動している吉満庄司・鹿児島県立開陽高校教頭を招き、パネラーとして、荒川学長や五代無実を著書で論証した末岡照啓・住友史料館研究顧問、原口泉・志學館大学教授(鹿児島大学名誉教授)、八木氏らが参加、五代の名誉回復を求める共同声明を発表する予定です。

※新型コロナウイルス感染状況によっては、シンポジウムは変更する場合があります。同窓会HPにてご確認ください。

会費納入のお願い

創立130年を超える永い歴史と伝統を有する有恒会も、昨年来のコロナ禍により、同窓会としての活動が制約を受けている状況が続いていることから、会費の納入率の低下が見られます。母校、大阪市立大学は141年の歴史を終え、来年4月には大阪公立大学として新しい歴史を踏み出すことになりますが、有恒会は継続してまいります。

有恒会は会員の皆様の会費によって支えられており、皆様のご支援なくしては会の運営は成り立ちません。昨年度以降、有恒会費が未納の会員がおられましたら、改めて有恒会費の納入をお願いします。

(事務局)

編集後記

いよいよ新大学認可も下り、来春開学に向けて有恒会も新しい枠組み作りに邁進しております。そのなかに旧通信病院に設置された旧大阪商大・高商跡地の石碑移設の話が出てきました。旧高商校舎は西欧風の潇洒な校舎で旧東京高商と並び立つ威容を誇っていたようです。新型コロナウイルスがなかなか収束せず、支部総会も開かれていない状況が続いているが、会報誌やリモート等の活用により交流を絶やさないように努めています。皆様方には是非ご健康に留意されますよう祈念します。

(編集人)

同窓会・有恒会スケジュール(2021年—22年)

10月 17日	奈良支部総会
10月 23日	大阪南支部総会
11月 3日	ホームカミングデー (Zoomにより開催)
11月 27日	民間企業OBOGと現役学生との交流会
12月 9日	開高健懸念
12月 18日	開高健記念講演会
1月 22日	五代友厚シンポジウム
3月 5日	全国支部代表者会議
7月 2日	同窓会定期総会
7月 2日	有恒会定期総会

投稿のご案内

皆様方の近況・ご意見を「読者の声」欄に掲載しますので奮ってご投稿ください。(200字程度) 投稿先:kaiho-b@ado.osaka-cu.ac.jp